

## 「H5N2 型」 鳥インフルエンザのヒトへの感染例が メキシコで初めて確認



世界保健機関（WHO）は6月5日、鳥インフルエンザ「H5N2」ウイルスのヒトへの感染事例が世界で初めて確認されたと発表しました。

感染が確認されたのは59歳のメキシコ在住の男性です。複数の基礎疾患があり、4月17日、発熱や息切れなどの症状が出はじめ、4月24日にメキシコ市の病院に入院しましたが、合併症のため死亡しました。感染源は不明で、ヒトが同型ウイルスに感染するリスクは低いと指摘しています。

「H5N2」ウイルスは、今年の3月と5月にアメリカで乳牛と接触した人や畜産関係者3名が感染した高病原性鳥インフルエンザA「H5N1」とは異なるものです。

一方で、6月7日には、インドからオーストラリアに帰国した2歳半の女儿が鳥インフルエンザA「H5N1」ウイルスに感染していることが判明し、国内で治療を受けたと発表しました。オーストラリアでは初めて「H5N1」ウイルスのヒトへの感染が確認されたそうです。

WHOは、H5N1の感染が哺乳類の集団に広がり始めると感染拡大の危険が高まり、ウイルスが変異し、ヒトからヒトへの感染が起こり得ると懸念を示しました。

現在、世界人口の増加や急激な経済発展を背景に、人々の活動が温暖化や森林破壊、砂漠化などの自然破壊を引き起こしています。このような環境の変化は、動物の生態系や生息圏にも変化を来し、野生動物と人間の社会の境界に混乱をもたらしています。

このことから、病原微生物の自然宿主である野生動物とヒトとの接触機会が増え、「人獣共通感染症」の発生が世界各地で頻繁に報告されているのです。ウイルスの発生を予測し、流行を防止する対策と、効果的なワクチンや治療薬を開発、実用化し、封じ込めることが重要です。

日本では、鳥インフルエンザや動物由来の感染症の予防対策として、動物の感染症などに関する情報の共有や、ワクチン研究など協力体制を築くため、平成 25 年 11 月 20 日に「(公社) 日本医師会と (公社) 日本獣医師会の学術協力の推進に関する協定」が締結されました。



### 【鳥インフルエンザ = 新型インフルエンザではない】

鳥インフルエンザは、一般的に鳥類がかかる病気です。ヒトが鳥インフルエンザにウイルスに感染することはありますが、その患者から別のヒトに病気がうつることは通常ありません。

しかし、ウイルスが特殊な遺伝子変異を起こした場合、ヒトからヒトへと感染する能力を獲得し、ヒト-ヒト間で持続的な感染が起こるようになった場合、新型インフルエンザと呼ばれるようになります。

